

令和3年度 市政モニターアンケート 調査結果活用状況

回	調査内容	調査目的	活用結果	活用状況
第1回	新型コロナウイルス感染症に対する意識 (保健所 広報班)	新型コロナウイルス感染症について市民がどのようにとらえているか調査を行い、効果的な啓発や感染防止対策に活用するため。	A(活用できた)	新型コロナウイルス感染症に関する情報についてテレビ、新聞に続き船橋市ホームページ以外のウェブサイトから情報を得ることが把握できた。 そのことから、ツイッターなどのSNSを利用した注意喚起を行うなど、広報の方法の検討に活用できた。
	船橋市の文化について (文化課)	「船橋市文化振興基本方針」の改定にあたり、基本方針に掲げた指標値である【船橋市を「文化が盛んなまち」だと思ふ市民の割合】がどの程度達成されているかを図るとともに、市民の芸術・文化の鑑賞・観覧、活動状況を把握し、本市の文化・芸術に係る課題等を把握するため。	A(活用できた)	第1次船橋市文化振興基本方針に掲げている指標値である【船橋市を「文化が盛んなまち」だと思ふ市民の割合】が、令和3年度時点では40.3%であることがわかり、5年間の取組の成果を数値として把握することができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響下における市民の鑑賞・活動の状況や、今後の文化振興施策に期待することなどを把握し、第1次基本方針策定時に行ったアンケート結果とも比較のうえ、第2次船橋市文化振興基本方針に反映させることができた。
	森林について (農水産課)	市内の森林に対する市民の考えを把握し、森林環境譲与税を活用した森林整備の促進方法の検討材料とするため。	A(活用できた)	別途実施したアンケート調査の結果と合わせて森林環境譲与税を活用した取組を検討するにあたり、「森林の整備」、「人材の育成及び確保」、「森林の有する公益的機能に関する普及啓発」、「木材の利用の促進」、この4つの観点から実施する取組や今後さらに検討すべき事項を決定する際の参考とした。
第2回	「船橋市の緑化」について (公園緑地課)	「船橋市の公園と緑に関するアンケート(平成26年度)」以降、市民の考えを把握する調査を実施しておらず、今後の施策方針の参考として、調査を実施する。また、緑化を推進するためには、行政だけではなく、市民主体の施策が必要となることから、市民意向を把握したい。調査結果の活用方法は、「市の花・木の認知度を把握し、周知の指標とする」「市民ニーズを把握し、公園づくりに活用する」「市民の活動を把握し、それらをサポートできるような施策を検討する」ことを想定している。	B(今後活用する)	市の花・木について、特にカザグルマの認知度は12.4%と低く、「いずれも知らない」の回答も33.3%あることから、認知度を高めていくよう、イベント等での周知を継続していくこととした。 また、公園等に望む役割について「緑や花を見て・ふれて感じる癒し効果」を最重要とする回答が増加(33.9⇒41.1%)したこと、現在実施している花苗サポーター事業やふれあい花壇事業の推進を含め、公園づくりやサポートに市民ニーズをどのように活用できるかを検討していく。
	船橋市の遺跡(埋蔵文化財)について (文化課)	取掛西貝塚に代表される市の遺跡(埋蔵文化財)について、市民の関心・認知度の把握を図るため調査するものである。今後、市内の埋蔵文化財について保存・整備を進めるうえでの参考として活用するため。	B(今後活用する)	取掛西貝塚を「知らない」と回答した人が75.2%と多いが、取掛西貝塚の今後の取り組みとして「学校教育での活用」や「史跡公園の整備」が良いと回答した人や、国史跡指定の効果として船橋市を知ってもらうきっかけや地域の歴史を学べるといった点に効果があると回答した人が50%を超えており、好意的な期待を寄せている様子が読み取れる。より広く市民に周知し、史跡の活用を進めるべく、アンケートをさらに分析して、R4.3月に設置した史跡取掛西貝塚保存活用計画策定委員会にて、史跡取掛西貝塚保存活用計画の策定に反映させる。
	新型コロナウイルス感染症拡大への市の対応 (保健所 広報班)	感染者が増加している中、感染拡大を防ぐために、人の流れや接触を抑える必要があることから、市の公共施設の利用制限の実施、市主催・共催のイベント中止等を行いました。市が実施したことについて、どう思われているか意見を伺い、今後の対応に役立てたいため。	A(活用できた)	公共施設の利用制限について「理解できる」という回答が75.9%、市主催・共催のイベントの原則中止について「理解できる」が83.0%と一定の理解が得られていることが確認できた。また、アンデルセン公園などの施設の開館希望も多くあったことから、施設の利用制限をどのように行うべきか検討する上で参考にした。
第3回	新型コロナウイルス感染症に対する意識 (保健所 広報班)	新型コロナウイルス感染症について、感染が落ち着いた時点における感染予防の意識の変化等を把握し、今後の感染症対策に対する効果的な方法を検討するため。	A(活用できた)	新型コロナウイルス感染症に関する情報についてテレビ、新聞に続き船橋市ホームページ以外のウェブサイトから情報を得ることが把握できた。 そのことから、ツイッターなどのSNSを利用した注意喚起を行うなど、広報の方法の検討に活用できた。
	住宅用火災警報器について (消防局 予防課)	過去、船橋市内で火災により亡くなった方は、ほとんどが住宅火災によって亡くなっています。住宅火災による被害を軽減するためには住宅用火災警報器の普及促進が必要不可欠ですが、設置が義務化されてから10年を経過し、機器の交換(電池寿命は約10年)も含めた更なる設置促進のための広報施策を検討する必要があることから、現状把握するため。	A(活用できた)	市内の住宅用火災警報器の設置率は約8割であることが明らかになった。また、設置していない理由として、主に「条例で設置を義務付けられていることを知らない」、「どのようなものかわからない」、「取付場所や購入方法がわからない」などが挙げられる。今回の結果を踏まえ、機器設置に係る促進方法や広報を効果的に実施するための検討資料として活用していく。
	自転車保険等への加入状況 (市民安全推進課)	千葉県で自転車保険の加入が義務化され、千葉県でも自転車保険の加入の義務化に向け、条例の改正が検討されている。本市として義務化前後での加入状況等を把握するとともに、自転車保険の加入促進や自転車の安全利用に関する今後の施策に反映したいため。	B(今後活用する)	令和4年7月1日から県内で加入が義務化される自転車保険について、義務化前の加入状況の調査を行った。今後、義務化後の加入状況についても調査し、自転車保険の加入促進や自転車の安全利用に関する今後の施策に反映したい。
	出張所・連絡所 (二宮出張所)	市役所本庁から遠くにお住いの市民の方々に、各種届け出や手続きを行なえる場所として出張所・連絡所を設置しています。市民の皆さまにとって使い勝手の良いところになるよう、より良いサービスを模索しているため、意見を伺い反映していくため。	B(今後活用する)	令和2年度から行っている、出張所・連絡所のレイアウト及び設備の改善について一定の評価を受けることができ、取り組みの成果を確かめることができた。 また、将来的な課題であるDX推進計画等における出張所・連絡所への影響に対して今回のアンケート結果から市民ニーズを確認し活用していきたい。